

ニーズレター

発行日 2024年1月17日

特定非営利活動法人 グループホームネット香川

新年号



あんもち雑煮
(甘味茶屋 ぶどうの木)

もくじ

	頁
○ 巻頭言	2-3
○ 一人暮らしの新年に思うこと	4
○ 利用者からの声	5
・ 私の些細な楽しみ	6
・ 巣立っていく息子へ ・ お母さんへ	7
○ ホームワーカーからの声	8
○ 事務局だより	8
○ 編集後記	8

■ 巻頭言

障害年金に思うこと

理事長 細谷 要一

謹んで新年のお慶びを申し上げます 本年もよろしくお願いいたします

かつて、病院の相談室にPSW(精神科ソーシャルワーカー)として勤めていたとき、障害年金の申請を希望する方の相談をよく受けていました。当初、社会保険事務所(年金事務所)へ障害年金申請の用紙を貰いに行くと「精神障害者が一人で来ても渡せない」と断られたりすることもありました。

1995年精神保健法から精神保健福祉法に変わり「精神障害者」が医療(のみ)の対象から福祉の対象としての“障害者”と位置付けられて大きく変化しました。その後、障害年金診断書の内容も改善されてきました。

精神障害での障害年金申請には“難しい”問題があります。いろいろな葛藤から障害受容ができず「年金」を受け入れない人、受容しても“経済的メリットより他の事情を考えて”申請をしない人がいます。申請を決心して相談室にきても「診断書」「病歴・就労状況等申立書」作成の中で、また大きな問題を受け入れなければなりません。それは診断書の中にある“日常生活能力の判定”という項目です。そこでは、“食事や身辺清潔等ができるか”が問われ、申請者の状態によっては、「“できない”方の判定になります」と医師から告げられることがあります。医療、福祉の場では“良くなる、できる、強みを…”がキーワードになるはずなのに、障害年金申請での判定では逆の話になっているのです。ときには申請者の表情に“ご飯なんか自分で食べとる、プライドが傷つけられた”が読み取れることがあります。当然、医師やPSWから“診断書の判定主旨や障害の状況を認定医に誤解されないためのやむを得ないもの…”等の説明やフォローを受け、理解されるのを待ちます。



精神障害は基本的にすべて1～5年の「有期認定」となり、「更新」しなければなりません。問題はこの更新の時で、「支給停止や等級変更（等級が下がる）」の通知が来ることがあります。精神障害の場合は身体障害の判定のようには数値化しにくく、更新時に体調・精神症状が良い状態だったり、診断書作成医が変わったりして、症状の波や就労（福祉就労を含め）はできたが日常生活のしづらさや精神症状は変わっていないようなときに、それを診断書に伝えきれない場合や読み取ってもらえない場合などがあったりします。その結果「支給停止」になることがあり、精神障害は他の障害と比べて多いといわれています。

その他にも精神の障害年金の問題は「障害基礎年金（国民年金）と障害厚生年金での等級の整合性の問題」「障害基礎年金認定における地域差があり、それを解消しようと一部の受給者をいきなり不支給にしようとした問題」「認定する医師による判定基準の違い」「不支給、支給停止等の不服申し立て（審査請求・再審査請求）への対応の厳しさ」等、多方面にわたります。

ただ、厚生労働省はそれらを放置しているのではなく、2016年に策定した「精神の障害に係る等級判定ガイドライン」のように、改善しようとしているところもみられます。

精神の障害年金についての私の大きな関心事は次のようなものです。先に述べたように、いろいろ問題が残されていますが、重要なところは精神障害の場合「就労」が審査の際、単純に“回復とみなされる”ところがあり、そうすると受給者は所得保障の基本的なものとしての“年金を失う”ことになり、生活設計が不安定なものになることです。身体障害では就労を理由とした支給停止はあまりなく、年金と就労収入によって生活設計が安定したものになっているとすれば、精神障害において抜本的に“生活のしづらさ”“「体調」の波”等精神の「障害特性」への理解をすすめ、障害認定に反映することが必要だと考えます。

早く障害年金が精神障害者にとって安定した所得保障になることを望みます。



一人暮らしの新年に思うこと

理事 梶 美幸

新年号に向けて晩秋の今、新年をどんな年にしようかと改めて考える機会をいただきました。

思えばずっと長い年月、盆も正月も関係なく慌ただしく過ごし、落ち着いて考えることもせずに歳ばかり重ねてきてしまっていたのです。特に世間が休日になると、電話がかかってきたり、居場所がないと言って訪ねてくる人が居たり…。そんな日々を過ごしていた私ですが、前回の春から夏はちょっと違っていました。いつもの年のように忙しくないのです。するとこれまで経験したことがないような体の不調が現れました。

車の運転中の突然のめまい、食欲不振、とうとう夏の終わりに10日間も寝込んでしまったのです。思えば一人の気ままな暮らしですから、欲しくないときには料理も手抜き！なんでもいから食べてればいいや、という自堕落な生活でした。もともと丈夫な体でしたので自分の体力を過信していたのです。

検査をしても、お医者さんは笑って「どこも悪くないですよ」と言い「どこも悪くないと言っても、座ってられないくらいしんどいのはなんでや！」と反撃しても笑われるばかり。もうこうなったら自分で何とかする！と決心し、その時に夏の初めからまともに食事を摂っていなかったことに気が付いたのです。

こうなったら人を呼ぶしかない。自分ひとりのためにあれこれ料理をしても残ってしまうので、友人に食べに来てもらうことにしました。すると嘘のように元気になり今では元の自分に戻りました。おそらく栄養失調だったのでしょう。

自分以外の人から「ありがとう」と言ってもらえることって元気の源です。それは別に何かをしてあげるといふ風に考えなくてもいいと思うのです。身近な人に「最近どうしてた？」など、ちょっとした声掛けだけで人はものすごくうれしく感じることもあるものです。そう考えると誰かを思い出すだけでもいいかもしれません。すると電話してみようかという気になるものです。

何でもいい、誰かの役に立つことをすると健康でいられるといわれています。自分の事だけを考えて、健康でいることは難しいことだと実感しました。新年はちょっとだけ誰かを思い出し、声をかけてみようと思っています。

利用者からの声

私の些細な楽しみ

ペンネーム 豆大福

こんにちは、皆さん日々の楽しみはありますか？

私は、グループホームに入居して、3年目を迎えたところです。入居したての頃は何も楽しみがなく日々を淡々と過ごしていました。入居する前の元気な頃は、音楽鑑賞が好きで香川に好きな歌手が来たら、コンサートに行ったりしていました。それが、病気になり音楽鑑賞が嫌いになりました。昔は音楽を聴くと楽しい気分になったのですが、今では音楽を聴くとしんどくなるのです。ラジオからたまに、1曲、2曲流れるのはいいのですが、ずっと音楽が流れてくるのを聴くのがダメなんです。

そんな中、私は何も楽しみがない日々を過ごしていましたが、最近、私の些細な楽しみが一つだけ見つかったのです。それは某スーパーの火曜日にコロッケが2個103円で売り出しているのです。普段はコロッケ1個が150円くらいで売り出しているのですが、コロッケが150円ですよ！！高くないですか？昔は1個100円くらいで売っていたのに。もともとコロッケが好きなので2個で税込み103円で買えるなんてと、私にとって、週一の楽しみになりました。朝一番に買いに行くと、揚げたてなので衣もサクサクです！！

今、物価高でなんでも値上がりの中、100円くらいで総菜が買えるのは、ほんと、ありがたいです。



巣立っていく息子へ

ペンネーム 万年ダイエット主婦

暑い暑い夏がやっと過ぎ涼しい日になると思っていたら、急に寒くなったりと体調が心配になっています。我が子がグループホームにお世話になることになって、もう4年になりました。

それ以前より一人で生活がしたいと希望し、何度も話し合いました。一ヶ月にかかる費用、家賃、電気、ガス料金、生活費（食費）等、まだ一人で生活する事の不安などもありました。そこで通院している先の先生に相談してみました。そのときにこちらのグループホームのことを知ることができました。

ビーズでの生活は、ほぼ自立したものであること、職場までの交通の利便性等を確認した上で、職員に連絡を取り入居に向けて準備を進めていただきました。申し込んでからの面談、体験入居をへて今に至っています。本人も希望が叶い大変喜んでいました。私も離れて暮らす事で心配も多かったのですが、意外とできていることもありました。お金の使い方がまだまだですが楽しそうに生活しており、笑顔も見られホッとしています。

まだまだ心配ではありますが、楽しいことが多い人生であるようにと願っています。

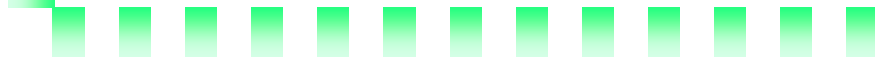
お母さんへ

ペンネーム オセロ

時々、食べ物を持ってきてくれたり、家事を助けてくれてありがとうございます。



ホームワーカーからの声



グループホームネット香川に入職して

ホームワーカー 森 香織

私が百間町のホームワーカー（以下、HW）になって、一年になります。無我夢中だったのか、あっという間でした。

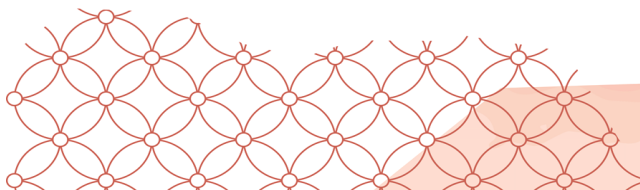
一年を振り返ってみると、必要な支援とそうでない支援がありました。私はそうでない支援を沢山してしまったなと感じています。思い出すことは、私が入居者のある行動を心配し、このままいくとトラブルに繋がるのではないかとということがありました。私の心配を伝えたほうがいいのか、伝えないほうがいいのか、暫く自分一人で考えましたが、判断できず先輩HWに相談しました。

先輩からは「HWが問題を回避する為の言葉掛けはしなくてもよいのではないか」という返事をいただきました。私は問題は少ないほうがよいように思いますが、問題が起きて初めて本人が気が付くこともあります。そういった出来事も大事な人生経験のひとつであり、HWが先走って回避する為の声掛けは、いらぬお節介だということがわかりました。入居者から相談を受け、支援をして欲しいという依頼があって、初めて関われるのだということがわかりました。

新人研修でHWは黒子のような存在だと聞きました。グループホームの主役は入居者で、入居者が主体的に考えて生活するところです。HWは普段は背景と同化していて、入居者に支援が必要になったときに、入居者と一緒に考える、という流れになればいいということを、この一年間で学びました。それでも、心配が先に立ち、あれはこれだと声掛けが多く、反省の日々です。

業務で分からないことや、こういうときにはどうするのかと先輩HWの皆さんに質問します。すると、先輩たちは入居者の要望のままにすぐに動くことはせずに、状況をしっかりと確認し、入居者の持つ力を信じて待つ支援をしているとのことでした。安易に動きがちな自分は入居者のできることを奪っているのだと気がきました。

背景との同化・黒子への道のりは長く感じますが、二年目はそこを意識していこうと思います。引き続きよろしく申し上げます。



事務局だより

事務局 増田 周作

あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願い申し上げます

2023年は、長く入居された方とのお別れに始まり、職員の退職などお別れの多い年だったと思います。

世の中では、WBCでの日本優勝、新型コロナウイルスが2類から5類へ移行、藤井八冠の誕生、ジャニーズ事務所の解体など、振り返るといろんなことがあった一年だったと感慨深いものがありました。

2024年は、新しい入居者との出会いが増える年になればいいなと思います。個人的には「よく動き、よく学び、よく遊び、よく食べて、よく休む」そんな一年にしたいと思っています。



編集後記

一年なんて本当に短いものですね。あれよ、あれよという間にいつの間にか時間が経ち、あっという間に新年を迎えました。私にとって、思い出に残ることと言えば、各グループホームを訪れる機会があったこと、機関誌発行に関していろいろな方々から、ご協力いただいたことなどです。特にグループホームの入居者といろいろお話ができたことは、今までになかったことで、ほんとうに良かったと思っています。今年も機会があれば、入居者の方たちとたくさんのコミュニケーションを通して、よりよい関係づくりができればと考えています。

また、NPO法人グループホームネット香川が発行する機関誌に、これまで以上に興味関心を持っていただき、ご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

そして、今年も皆さまにとって、今まで以上に良い年となりますよう願っております。
(天満)

(発行) 特定非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先： 香川県高松市成合町559番地15

TEL：087-885-5270 FAX：087-887-5955